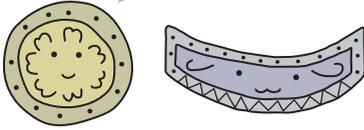


(1) 出会いの地・保良宮

761年
(天平宝字五年)

そもそも、ふたりが出会ったきっかけは？



平城京の北方にあった近江国ほらのみやの保良宮(滋賀県大津市)というところで、孝謙上皇(のちの称徳天皇)の病気を治したのがきっかけなんだ。



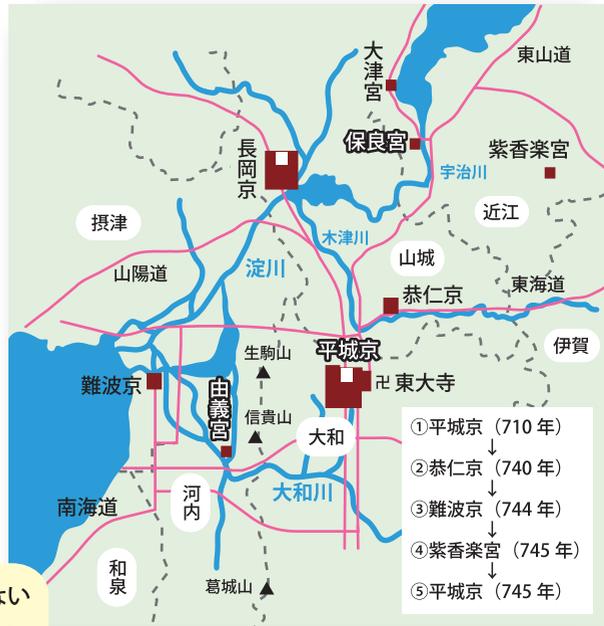
昔はお祈りをして病気を治したんだよ

道鏡は、孝謙上皇じゆんにんが淳仁天皇ほらのみやとともに訪れた保良宮(現在の滋賀県大津市)で、医療と仏教の知識がある看病禪師として上皇の病気を治し、信頼を得ました。

奈良時代の都

奈良時代(710~794年)の都でよく知られているのは平城京(奈良市)ですが、聖武天皇は、恭仁京(京都府木津川市)や紫香楽宮(滋賀県甲賀市)、難波京(大阪市)に都を移しています。

保良宮は、平城京の副都として置かれた「北京」といわれていますが、かわいい場所はわかっていません。



奈良時代の宮都の位置



副都の役割ははっきりしないんだけど、中国の制度をまねたと考えられているんだ。また後から出てくる「由義宮」や「西京」も副都のようなものなんだよ。

※「さいきょう」と呼ぶこともあります。

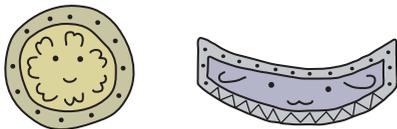
称徳天皇も、父である聖武天皇の都の造り方をまねしてたのかもしれませんね。



(2) 天皇、再び即位する

764年
(天平宝字八年)

即位して、どんな政治をおこなったん？

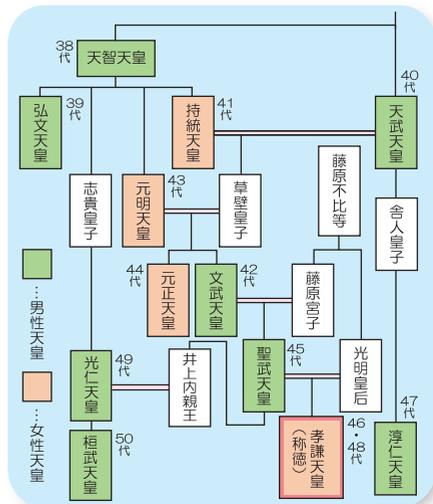


道鏡の影響もあって762年に出家していた孝謙上皇ですが、淳仁天皇とのいさかいや、764年の藤原仲麻呂の乱の後、上皇は再び即位し称徳天皇となります。

そして、道鏡と共に仏教を中心とした政治を行いました。その象徴として、東大寺に対するお寺として西大寺を、その尼寺として西隆寺を建立しました。

ひゃくまんとう
百万塔って？

父の聖武天皇とおなじように、
仏教の教えをもとにした
国づくりを進めるため、
さいだいじ さいりゅうじ
西大寺や西隆寺を建てたり、
ひゃくまんとう
百万塔を配布したりしたんだ。



称徳天皇に関する系図

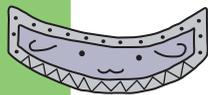
また藤原仲麻呂の乱の死者の供養のため、「百万塔」という高さ20cmほどの木製の三重塔を6年かけて100万個をつくり、薬師寺、興福寺、法隆寺、四天王寺など大きな10の寺に配りました。

この中には「百万塔陀羅尼」とよばれる鎮護国家を祈ったお経が納められました。このお経は、銅版や木版で印刷されており、また年代が明らかであるため、世界で最も古い印刷物といわれています。



百万塔・百万塔陀羅尼

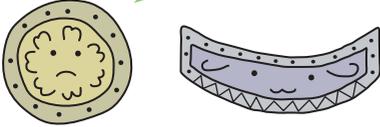
百万個ですか!すごいね!!
称徳天皇は、再び戦いが起こらない
平和な世の中にするために、
仏教の教え、そして道鏡にも頼ったんですね



(3) 天皇が弓削に来る

765年
(天平神護元年) 10月

天皇が来るなんて大変とちゃうの？



そうなんだ。称徳天皇を

お迎えするため、
ゆげのあんぐう
弓削行宮(仮の宮殿)や
お寺を整備したみたいだよ。



道鏡は、紀伊国からの行幸の帰りに立ち寄る称徳天皇のため、のちの西京の造営のはじまりとなる宮や寺の整備を行ったと思われます。そして、弓削の地にやって来た天皇は、弓削寺で仏を拝むなど、5日間をすごしました。弓削寺は弓削氏の氏寺で、由義寺の前身の寺と考えられています。

そして、道鏡を僧でありながら最高の官職である太政大臣禪師に任じました。道鏡は故郷に錦を飾ったのです。



弓削寺で仏を拝む称徳天皇と道鏡(イメージ)

道鏡だけでなく、
弓削一族も出世していて、
道鏡の弟の弓削浄人は
大納言になり従二位と
なっているんだ。



道鏡さんも天皇を迎えるまでになって
ほこらしかったでしょうね～

